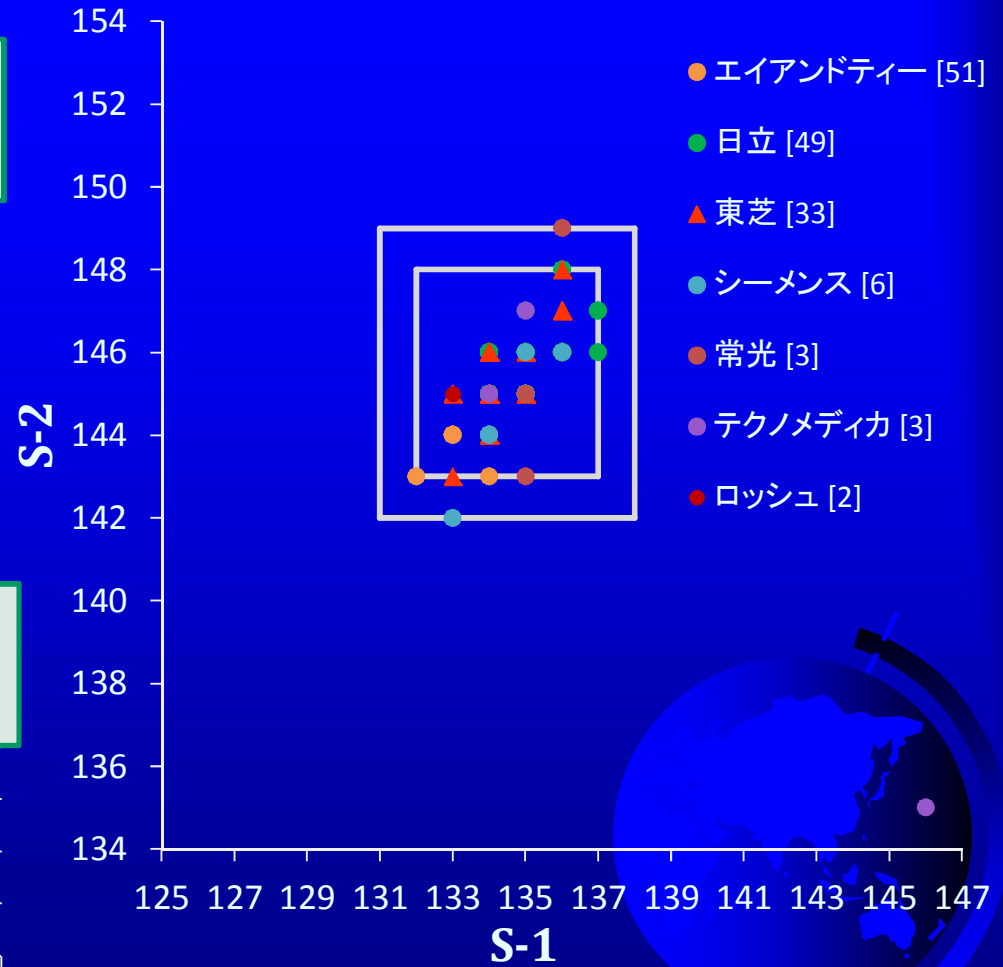
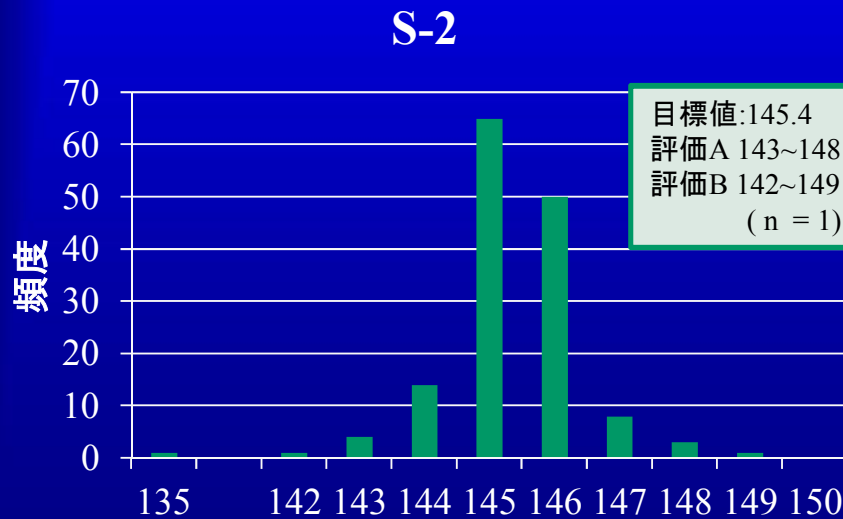
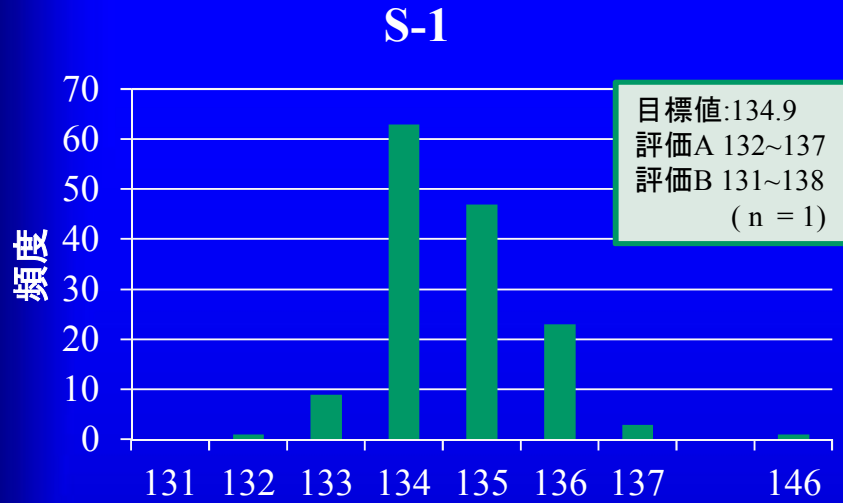


電解質・Ca・IP・Fe

立正佼成会附属佼成病院
伊藤 京子



ナトリウム



ナトリウム(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
日立ハイテクノロジーズ	49	33.3	S-1	135.0	0.9	0.7
			S-2	145.7	0.8	0.5
エイアンドティー	51	34.7	S-1	134.4	0.8	0.6
			S-2	145.1	0.8	0.6
東芝	33	22.4	S-1	134.4	0.9	0.7
			S-2	145.5	1.0	0.7
シーメンスHCD	6	4.1	S-1	134.5	1.0	0.7
			S-2	144.5	0.6	0.4
ロシュ・ダイアグノスティックス	2	1.4	S-1	133.0	0.0	0.0
			S-2	145.0	0.0	0.0
常光(非希釈法)	3	2.0	S-1	135.3	1.4	1.0
			S-2	145.7	3.1	2.1
テクノメディカ(非希釈法)	3	2.0	S-1	134.7	0.6	0.4
			S-2	146.0	1.0	0.7
全体	147	100.0	S-1	134.6	0.9	0.7
			S-2	145.4	1.0	0.7

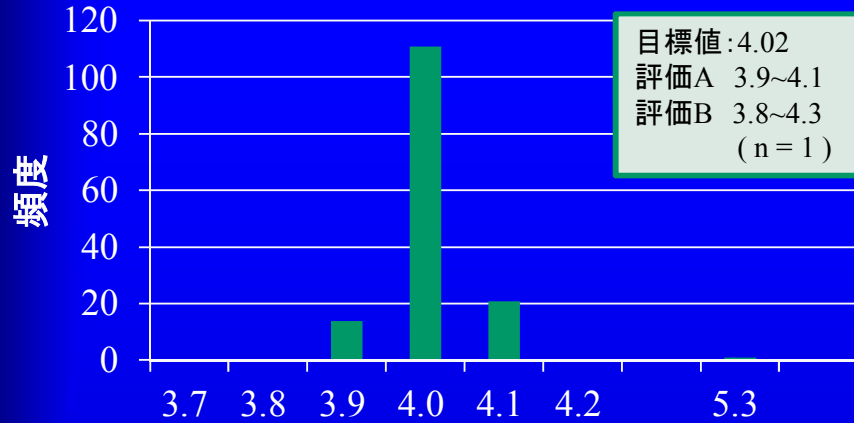
ナトリウム解析結果

1. 測定法は希釈法(間接法)が96%、非希釈法(直接法)が4%であった。希釈法のうち94%を日立、エイアンドティー、東芝製の電極で占めている。
2. 測定法別平均値は、試料S-1・S-2ともに大きな差はなくバラツキも小さく収束している。
3. 目標値 $\pm 3\text{mmol/L}$ を外れた施設は、試料S-1・S-2ともに1施設であった。

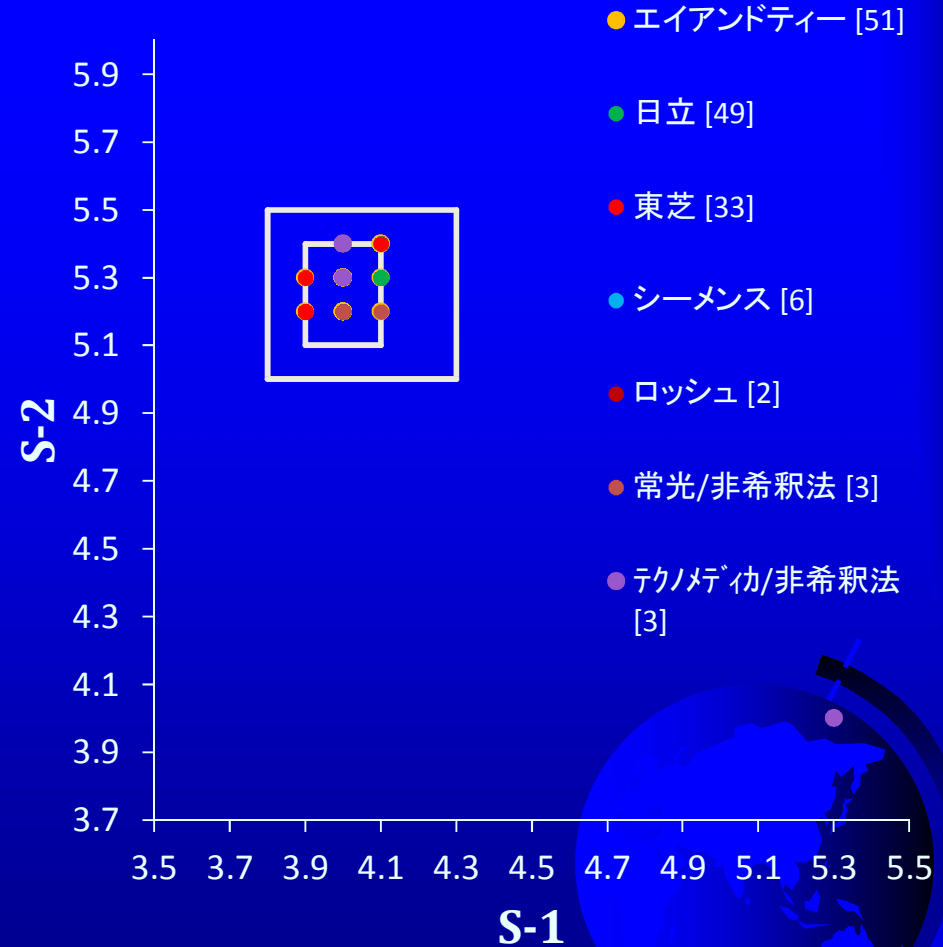
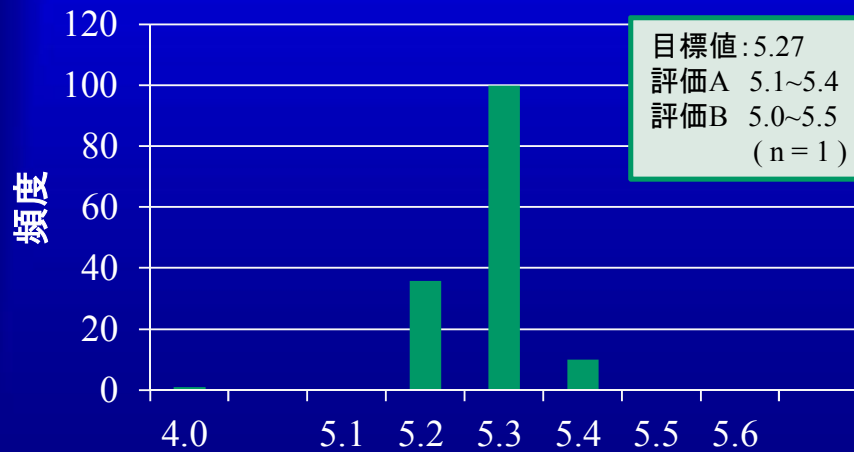


カリウム

S-1



S-2



S-1

カリウム(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
日立ハイテクノロジーズ	49	33.3	S-1	4.03	0.05	1.2
			S-2	5.29	0.05	0.9
エイアンドティー	51	34.7	S-1	4.01	0.04	1.0
			S-2	5.29	0.05	0.9
東芝	33	22.4	S-1	3.97	0.05	1.3
			S-2	5.25	0.06	1.1
シーメンスHCD	6	4.1	S-1	4.00	0.00	0.0
			S-2	5.30	0.06	1.1
ロシュ・ダイアグノスティックス	2	1.4	S-1	4.00	0.00	0.0
			S-2	5.30	0.00	0.0
常光(非希釈法)	3	2.0	S-1	4.03	0.06	1.5
			S-2	5.23	0.06	1.1
テクノメディカ(非希釈法)	3	2.0	S-1	4.00	0.00	0.0
			S-2	5.35	0.07	1.3
全体	147	100.0	S-1	4.00	0.05	1.3
			S-2	5.28	0.05	0.9

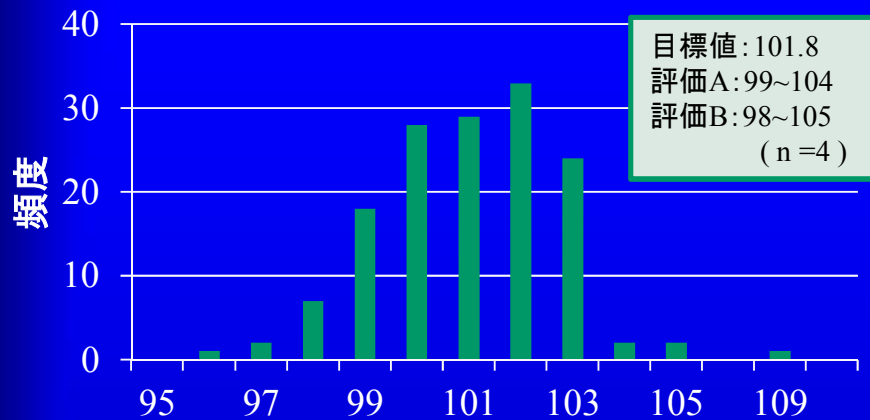
カリウム解析結果

1. 測定法は希釈法(間接法)が96%、非希釈法(直接法)が4%であった。希釈法のうち94%を日立、エイアンドティー、東芝製の電極で占めている。
2. 測定法別平均値は、試料S-1・S-2ともに大きな差はなくバラツキも小さく収束している。
3. 目標値 $\pm 0.2\text{mmol/L}$ を外れた施設は、試料S-1・S-2ともに1施設であった。

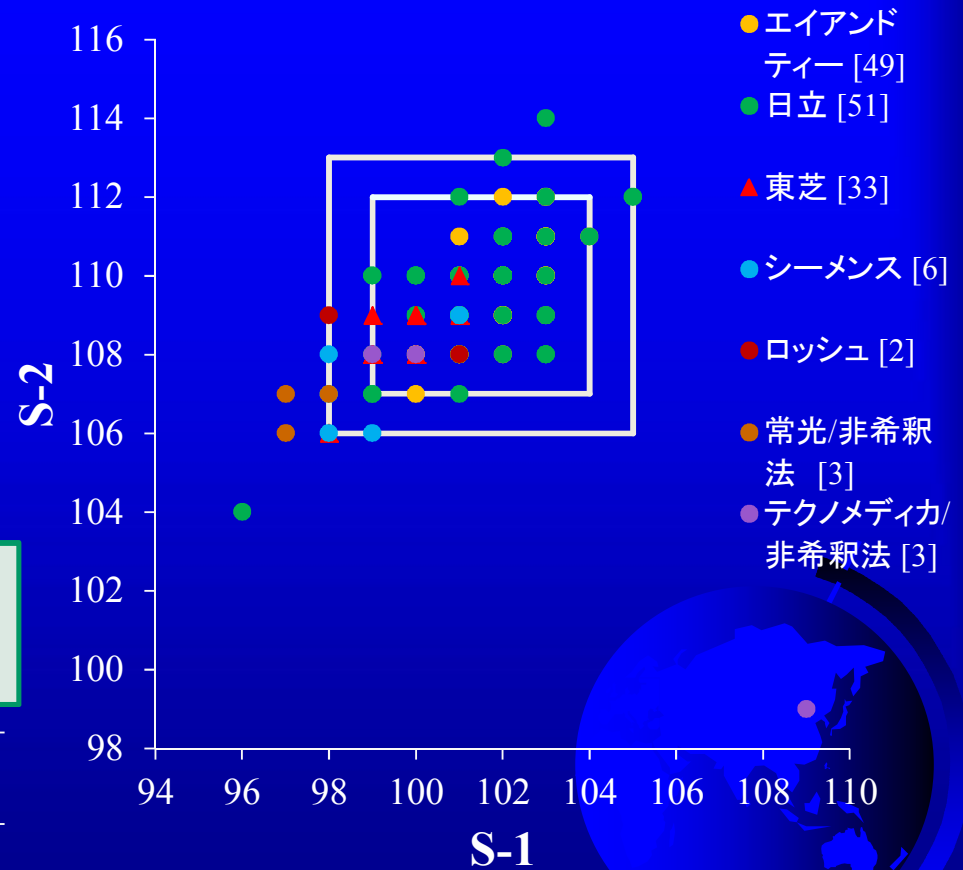
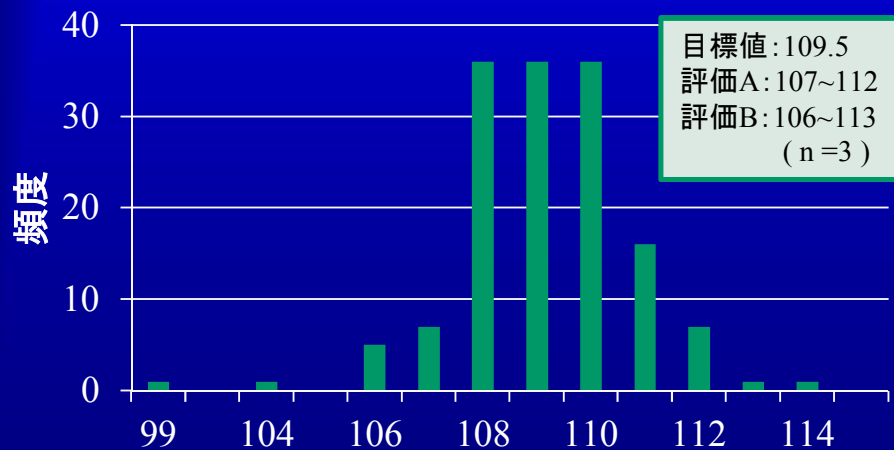


クローラ

S-1



S-2



クロール(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
日立ハイテクノロジーズ	49	33.3	S-1	101.4	0.8	0.8
			S-2	109.6	0.8	0.7
エイアンドティー	51	34.7	S-1	102.0	0.9	0.9
			S-2	109.8	1.2	1.1
東芝	33	22.4	S-1	99.7	0.8	0.8
			S-2	108.3	0.8	0.7
シーメンスHCD	6	4.1	S-1	99.2	1.5	1.5
			S-2	107.5	1.4	1.3
ロシュ・ダイアグノスティックス	2	1.4	S-1	99.5	2.1	2.1
			S-2	108.5	0.7	0.6
常光(非希釈法)	3	2.0	S-1	97.3	0.6	0.6
			S-2	106.7	0.6	0.6
テクノメディカ(非希釈法)	3	2.0	S-1	99.5	0.7	0.7
			S-2	108.0	0.0	0.0
全体	147	100.0	S-1	101.0	1.7	1.7
			S-2	109.2	1.5	1.4

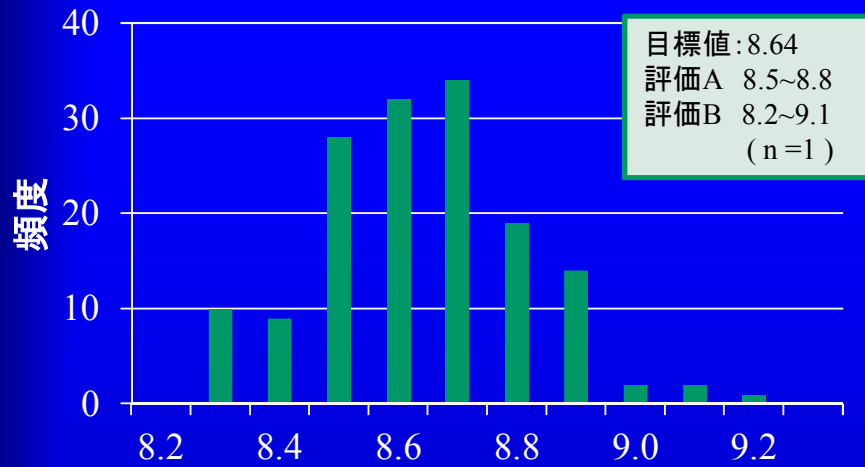
クロール解析結果

1. 測定法は希釈法（間接法）が96%、非希釈法（直接法）が4%であった。希釈法のうち96%を日立ハイテクノロジーズ、エイアンドティー、東芝社製の電極で占めている。
2. 測定法別平均値は、試料S-1・S-2ともに大きな差はなくバラツキも小さく収束している。Na・Kに比べ方法（電極）間の差がみられる。
3. 目標値 $\pm 3\text{mmol/L}$ を外れた施設はS-1で4施設、S-2で3施設であった。

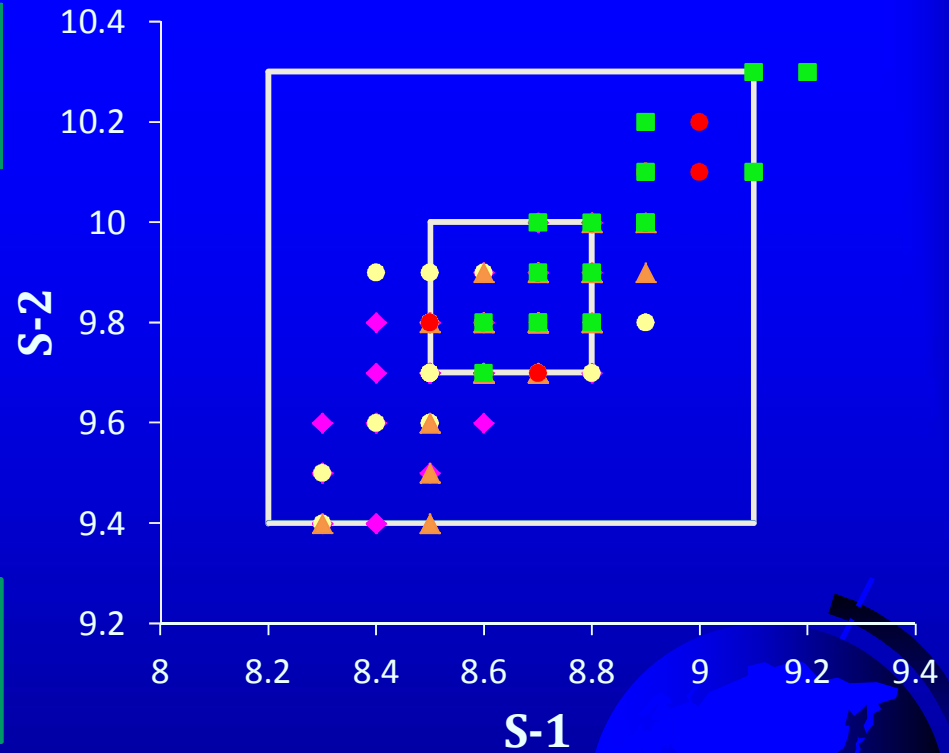
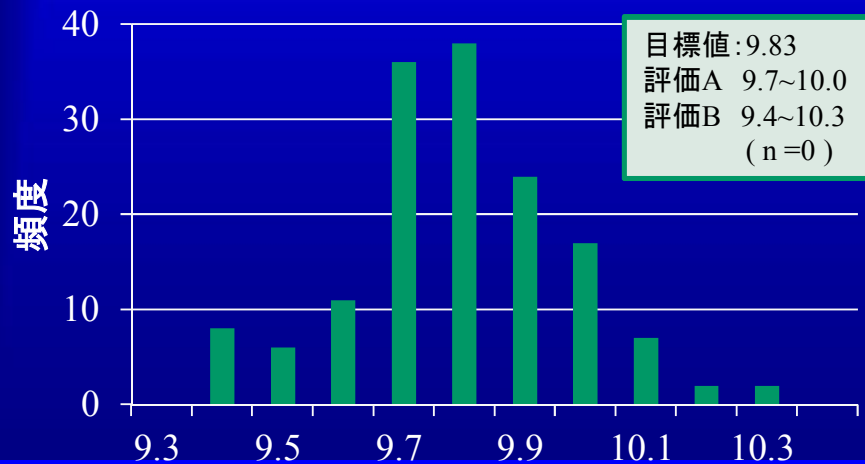


カルシウム

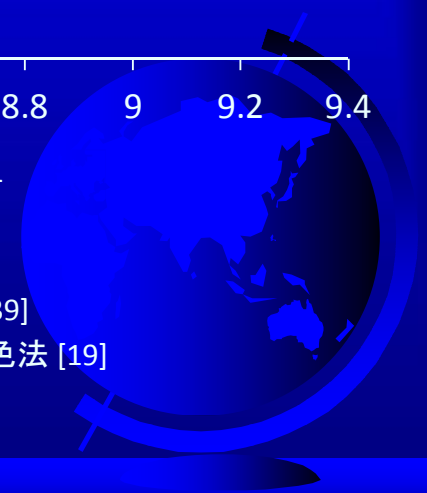
S-1



S-2



- ◆ OCPC法 [44]
- MXB法 [33]
- ▲ アルセナゾⅢ比色法 [39]
- クロロホスホナゾⅢ比色法 [19]
- 酵素法 [18]



カルシウム(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
OCPCキレート比色法	42	27.8	S-1	8.52	0.15	1.8
			S-2	9.70	0.17	1.7
MXBキレート比色法	33	21.9	S-1	8.60	0.16	1.8
			S-2	9.77	0.15	1.5
アルセナゾIII法	39	25.8	S-1	8.66	0.12	1.4
			S-2	9.75	0.15	1.5
クロロホスホナゾIII比色法	19	12.6	S-1	8.76	0.14	1.6
			S-2	9.93	0.14	1.5
酵素法	18	11.9	S-1	8.83	0.17	1.9
			S-2	9.98	0.16	1.6
全体	151	100.0	S-1	8.64	0.18	2.1
			S-2	9.79	0.18	1.9

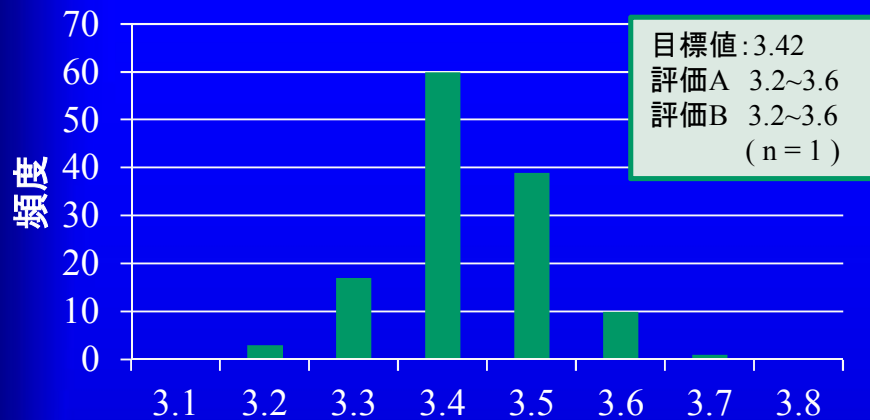
カルシウム解析結果

1. 測定法は昨年に続きOCPCキレート比色法が約5.5%減少し、アルセナゾⅢ法が約4%、クロホスホナゾⅢ法が約2.5%増加した。
2. 測定方法別平均値に大きな差はみられないが、OCPCキレート比色法で低値傾向、クロホスホナゾⅢ比色法、酵素法が高値傾向であった。
3. 目標値 ± 0.4 mg/dlを外れた施設はS-1で1施設、S-2で1施設であった。

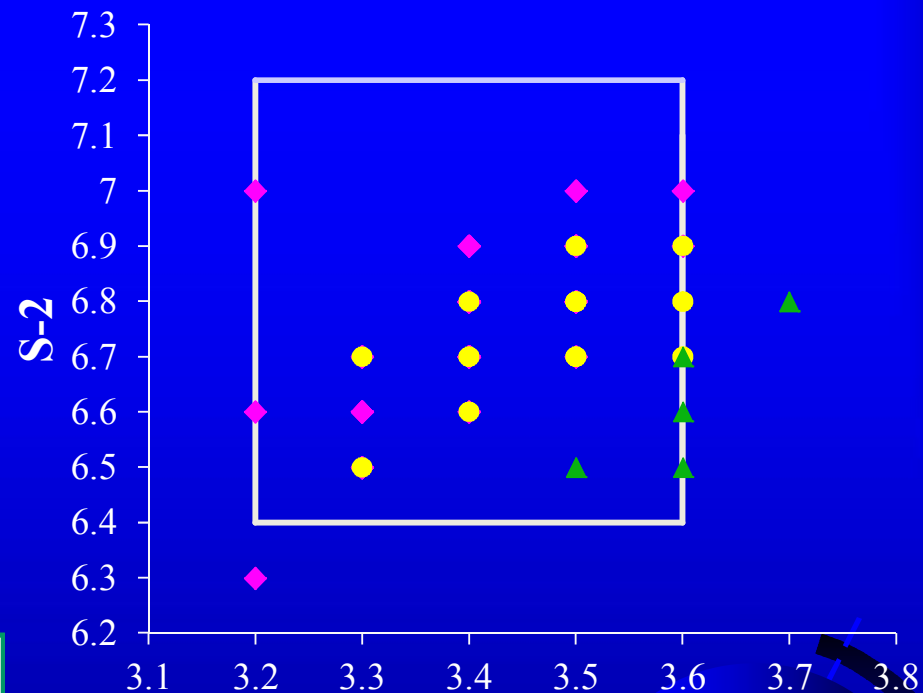
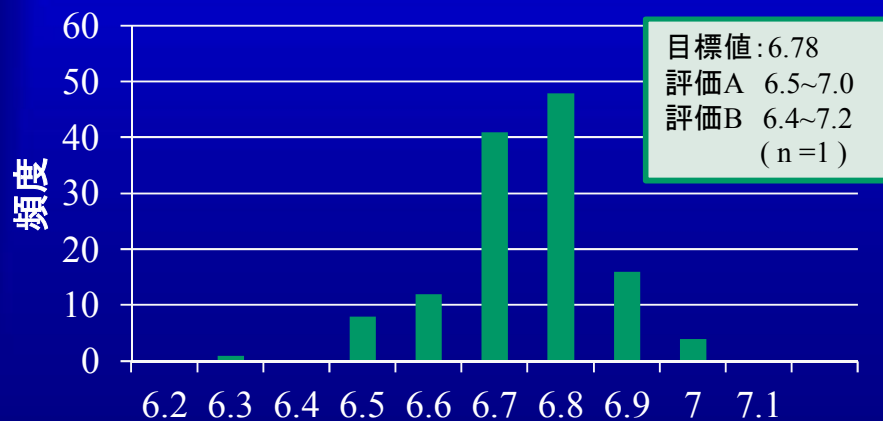


無機リン

S-1

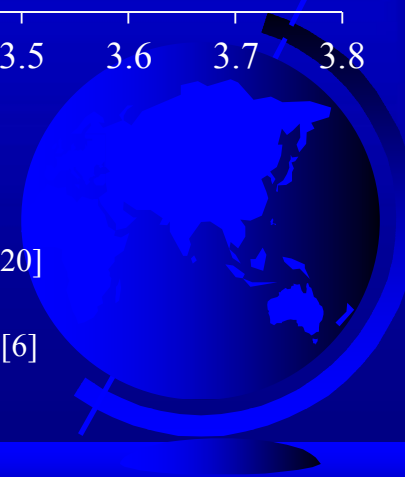


S-2



S-1

- ◆ 酵素法 [104]
- モリブデン酸・UV法 [20]
- ▲ モリブデン・ブルー法 [6]



無機リン(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
酵素法	104	80.0	S-1	3.41	0.08	2.3
			S-2	6.76	0.12	1.7
モリブデン酸・UV法	20	15.4	S-1	3.49	0.09	2.7
			S-2	6.75	0.09	1.4
モリブデン・ブルー法	6	4.6	S-1	3.58	0.08	2.1
			S-2	6.60	0.13	1.9
全体	130	100.0	S-1	3.43	0.09	2.6
			S-2	6.75	0.12	1.8



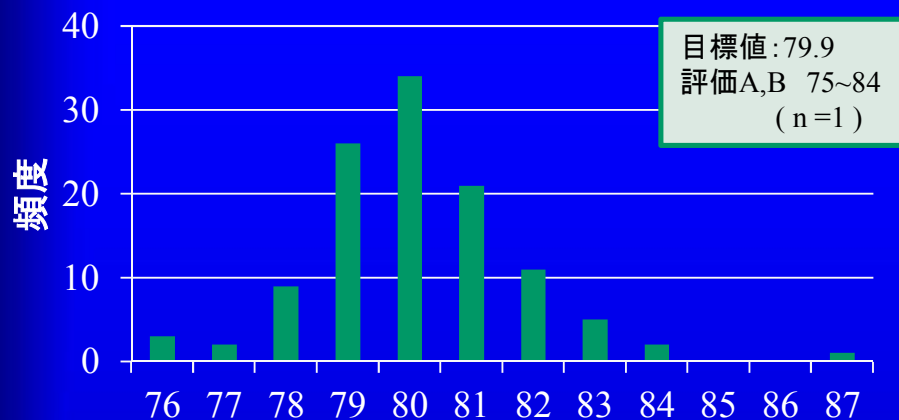
無機リン解析結果

1. 測定法は酵素法が80.0%、モリブデン酸・UV法が15.4%、モリブデン・ブルー法が4.6%であった。
2. 測定方法別平均値は試料S-1・S-2ともに大きな差はみられなかった。
3. 目標値 $\pm 5\%$ を外れた施設は、S-1で2施設、S-2で1施設であった。

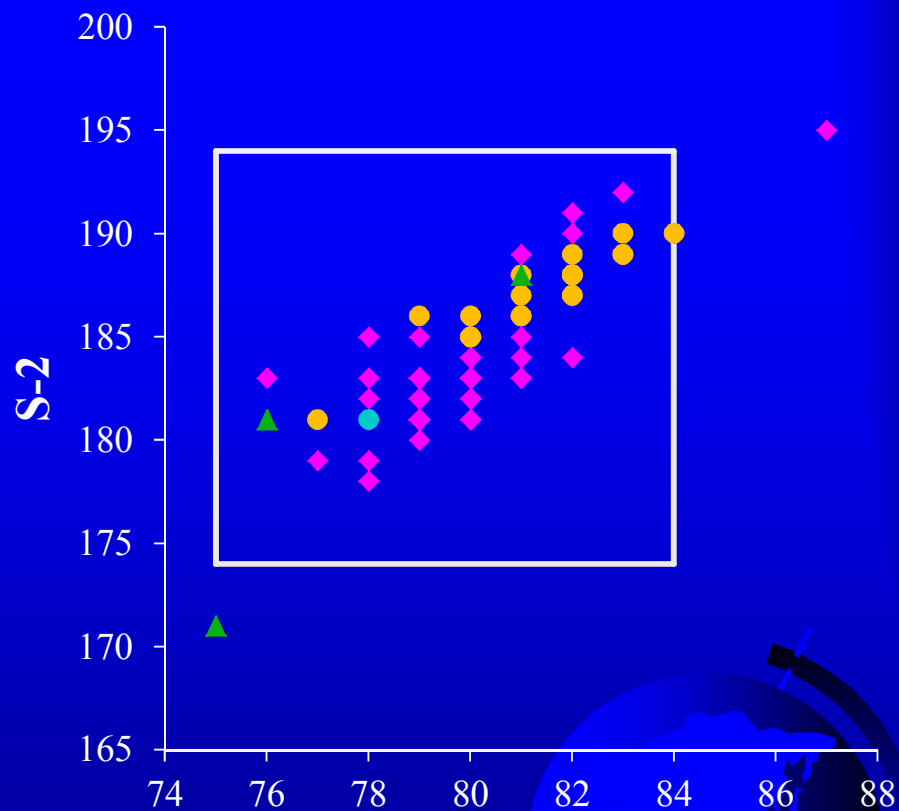
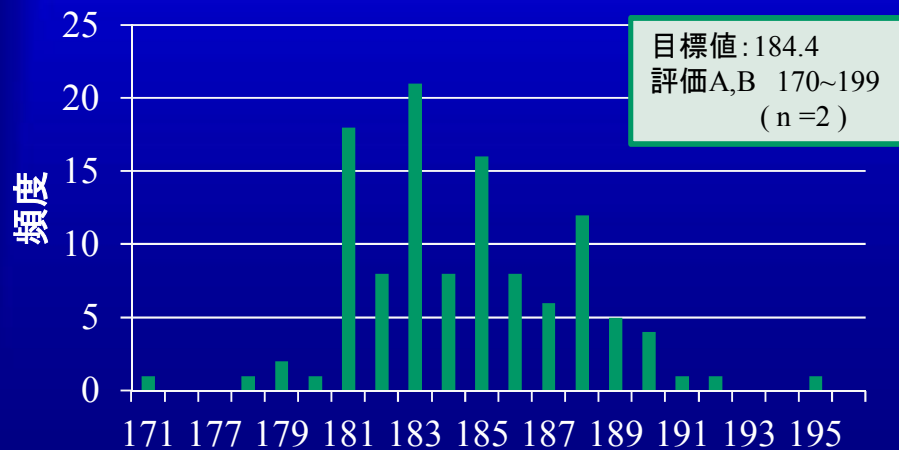


血清鉄

S-1



S-2



S-1

- ◆ Nitroso-PSAP法 [89]
- バソフェナントロリン法 [21]
- ▲ Ferene色素法 [3]
- NPS法 [1]



血清鉄(方法別)

測定方法	施設数	施設%		平均	SD	CV%
Nitroso-PSAP法	89	78.1	S-1	79.9	1.5	1.9
			S-2	183.9	3.0	1.6
バソフェナントロリン法	21	18.4	S-1	81.3	1.6	2.0
			S-2	187.0	2.1	1.1
Ferene色素法	3	2.6	S-1	77.3	3.2	4.2
			S-2	180.0	8.5	4.7
NPS法	1	0.9	S-1	78.0	—	—
			S-2	181.0	—	—
全体	114	100.0	S-1	80.0	1.6	2.0
			S-2	184.5	3.0	1.6



血清鉄解析結果

1. 測定法はNitoroso-PSAP法が最も多く78.1%、バソフェナントロリン法が18.4%、Ferne法が2.6%、NPS法が0.9%であった。
2. 測定方法別平均値は試料S-1、S-2ともに大きな差はみられなかった。
3. 目標値±5%を外れたのはS-1で1施設、S-2で1施設であった。

